

S14b **クェーサースペクトルエネルギー分布の準解析的モデルへの導入と解析**

白方 光, 岡本 崇 (北海道大学), 榎 基宏 (東京経済大学), 長島 雅裕, 大木 平 (文教大学), 小林 正和 (愛媛大学), 石山 智明 (筑波大学), 真喜屋 龍 (東京大学)

我々は Numerical Galaxy Catalogue (ν GC; Nagashima et al. 2005) をベースとした準解析的銀河形成モデルを用いて、クェーサーの統計的性質を研究している。2014 年秋季年会 (S36a) では、母銀河に存在するダストがクェーサーに与える減光効果を銀河のモデルと統合的に考えた。モデルから得られた光度関数を観測と比較し、このダスト減光効果は無視できないことを報告した。今回はクェーサーの B バンド光度関数のみを比較した結果を報告したが、この結果の正当性を議論するためには、ダスト減光を無視してよいと考えられる波長域の観測データとの整合性を見る必要がある。また、観測結果を解析・議論する際に使えるモデルを構築するという意味では、クェーサーの多波長のスペクトルを再現できることが望ましい。そこで、クェーサースペクトルエネルギー分布のモデル化を行うことにした。ダスト減光の取り扱いは前回と同様、銀河のモデルと統合的に扱う。本学会では X-Ray の光度関数の観測との比較結果をはじめ、モデルの改良点やそこから得られるクェーサーの統計的性質について報告する。